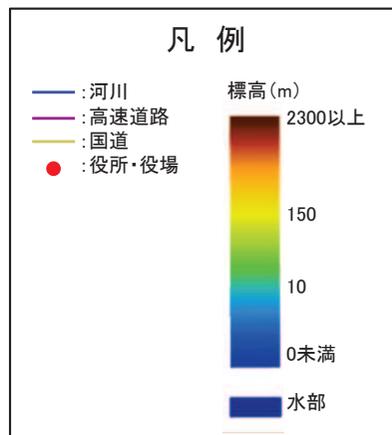


【参考資料】 自然の恵みと災害リスク 〈村山地域〉

- 村山地域は、東の奥羽山脈、西の出羽山地、南の朝日山地に挟まれた盆地です。北流する最上川の中流部にあり、周囲の山々から栄養分を豊富に含んだ土砂が運ばれることで、豊かな土壌が作られました。
- 一方で、人口密集地直下の活断層による地震や、水が集まる水害（バックウォーター現象等）や生活や経済活動を妨げる雪害など、複合的な災害リスクを抱えています。



地図出典：国土地理院デジタル標高地形図（山形県）
に加筆し作成

1. この地域の地形からもたらされる自然の「恵み」

(1) 果樹王国を支える大地の恵み

- 村山地域は、蔵王連峰、月山、大朝日岳に囲まれた盆地で、その春夏秋冬がはっきりと明確な気候がさまざまな果実や米を育てています。明治初頭から果樹栽培が行われており、特に、長い年月をかけて品種改良されたさくらんぼや、ラ・フランスをはじめとする様々な果実が楽しめます。



出典：山形市

図 さくらんぼ

(2) 歴史と文化を運んだ最上川舟運

- 村山地域には、最上川舟運を利用した紅花等の交易により上方文化がもたらされ、今でも地域至る所にその面影が残されています。その中の一つに雛人形があり、旧家には古今雛、享保雛が数多く残り、雅で優雅な江戸の時代へと思いを巡らせてくれます。



出典：山形県

図 山形蔵王 樹氷

(3) 火山がもたらす温泉と絶景

- 開湯1,900年を超える蔵王温泉をはじめ、上山温泉、銀山温泉、天童温泉、東根温泉など、楽しみいろいろ、個性さまざまな温泉が楽しめます。宮城県との県境となる蔵王連峰は、特別な気象条件と植生(しょくせい)が織りなす世界的に知られる自然の造形美「樹氷」が作られ、その神秘的な美しい景観は世界でも評判で、一目見ようと訪れる人が絶えません。蔵王山の周辺にはスキー場も多く、東北地方を代表する山岳リゾートとして12月初旬から3月にかけて多くのスキーヤーで賑わっています。



出典：山形市

図 最上紅花

大地の成り立ちと災害リスクを正しく認識するとともに、土地がもたらす「恵み」についても併せて理解する防災学習が重要です。

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(1) 地震災害リスク

- 山形盆地断層帯は、山形盆地の西縁に位置する活断層帯で、大石田町から村山市、河北町、寒河江市、中山町、山辺町、山形市を経て上山市に至る全長約60kmの南北に伸びた活断層帯です。経験則から求めた平均活動間隔は2,500年程度の可能性が示されており、今後30年の間にマグニチュード7.3程度の地震が発生する確率は、北部で最大8%、南部で最大1%と、我が国の主な活断層の中では「高い」～「やや高い」グループにあります。
- この断層は上山市、山形市西部、寒河江市、河北町などの人口密集地の直下を走っており、M7.8程度の地震が想定されます。

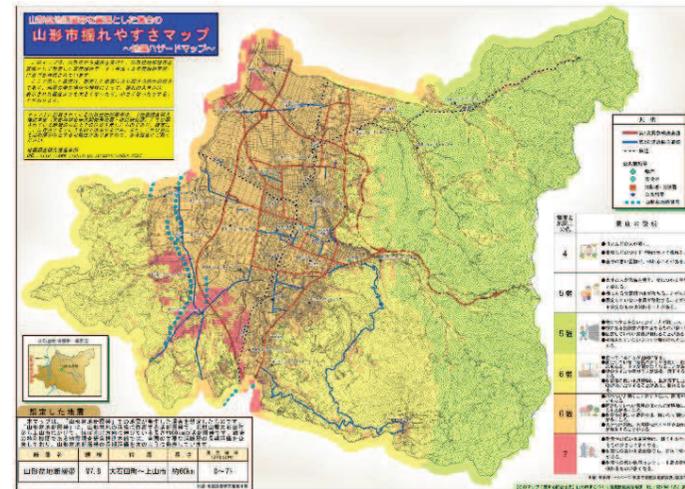


図 山形市揺れやすさマップ (山形市HP)

(2) 火山災害リスク

- 蔵王山は、観光や登山など多くの方々に親しまれていますが、東北地方を代表する活火山です。御釜を中心とする活火山で約100万年間の噴火の歴史があります。御釜の直近の噴火は1895年に起こっています。
- 噴火により、火口から噴石や火山灰が噴出します。爆発的な噴火の場合は火砕流（火砕サージ）の発生も考えられます。噴石や火山灰は山の斜面に降り積もりますが、雨が降ったときにこれらの噴石や火山灰が流れ出し、土砂や岩石を巻き込みながら川を流れ下ります（土石流）。積雪期に噴火が起ると、高温の噴出物が雪を一気に溶かし、泥流が発生することがあります。（融雪型火山泥流）



図 蔵王山ハザードマップ (山形県HP)

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

山形県 地震ハザードマップ



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

蔵王山火山防災マップ
発行：蔵王山火山防災協議会
(事務局：山形県防災危機管理課)



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

2. 「恵み」と共にある災害リスク

(3) 水害リスク

- 村山地域は、周囲の山々から多くの川が盆地の中央に流れる最上川に向かって集まる地形をしています。流域が樹枝状で東西の分水嶺に源を発しており、急流河川であり流路が短く、山地の降雨が短時間で平地に至り洪水が一時に集中する特性を有しています。さらに、最上川本流の水位が上がると、そこに合流しようとする支流の水が入れなくなり、行き場を失って溢れる「バックウォーター現象」が発生しやすいという特性も有しています。
- 令和2(2020)年7月豪雨では、山形県内に甚大な被害が発生しました。最上川では、堤防からの越水が4箇所、溢水が5箇所発生しました。最上川支流の白水川では、最上川のバックウォーターにより堤防が決壊、広範囲が浸水しました。

浸水状況 (令和2年7月豪雨)



図 白水川（東根市）浸水状況
(山形県資料より)

(4) 雪害リスク

- 山形県は県全体が「豪雪地帯」に指定されていますが、村山地域では尾花沢市、大石田町、村山市、西川町、大江町、朝日町、上山市が「特別豪雪地帯」に指定されています。村山地域では、大陸から吹き出す季節風が、日本海で水蒸気を補給した後、奥羽山脈にあたって上昇気流となることで雲が発達し、山間部や山沿いに雪を降らせます。さらに盆地特有の低温が降った雪を溶けにくくし、積雪量が増えやすい環境にあります。
- 2025年の大雪では、山形市でも58cmの最大積雪深を記録するなど、平地部でも大雪となりました。除雪など作業中に発生した多数の人的被害のほか、果樹の枝折れやハウスの倒壊など多数の農林水産被害が発生しました。

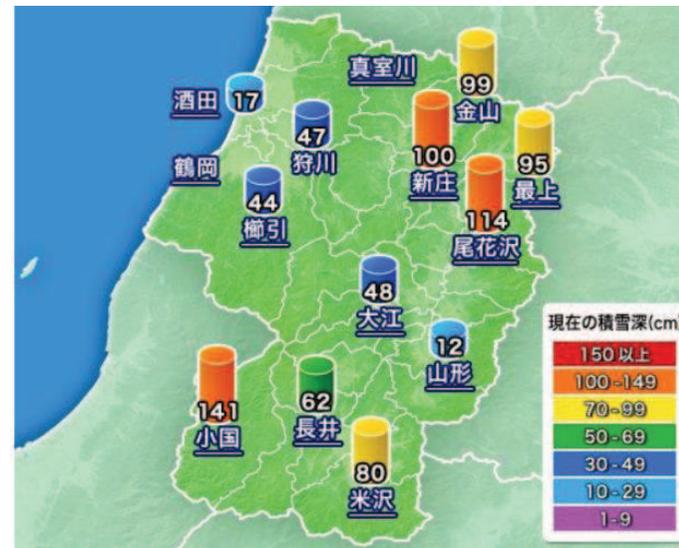


図 山形県雪情報システム 現在の積雪状況
(2026年1月26日12:00)

(5) 土砂災害リスク

- 県内では、奥羽山脈及び朝日山地等の山地に囲まれた急傾斜地が多いこと等から、がけ崩れや土石流などの土砂災害危険箇所が県内全域に点在しています。

ハザードマップ(HM)
参考情報
(R8年3月時点)

重ねるハザードマップ
(村山地域・洪水・土砂災害HM)



リンク先：国土交通省HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

山形県雪情報システム



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。